

◎新尼御前御返事

「千が九百九十九人は堕ちて候」

(御書新版 1223 ページ・御書全集 907 ページ)

◎新・人間革命 激闘の章

なぜ、第六天の魔王が戦を仕掛けてくるのか。もともと、この娑婆世界は、第六天の魔王の領地であり、魔王が自在に衆生を操っていたんです。そこに法華經の行者が出現し、正法をもって、穢土である現実世界を浄土に変えようとする。それが広宣流布です。

そこで魔王は、驚き慌てて、法華經の行者に対して戦いを起こす。したがって、広宣流布の道は魔との壮絶な闘争になるんです。

(『新・人間革命』第 27 卷 261 ページ)

◎新・人間革命 激闘の章

成仏というのは、本質的には外敵との戦いではなく、わが生命に潜む魔性との熾烈な戦いなんです。つまり、内なる魔性を克服していったこそ、人間革命、境涯革命があり、幸せを築く大道が開かれるんです。

(『新・人間革命』第 27 卷 262 ページ)

◎単衣抄

「二十余年が間、一時片時も心安きことなし。」

(御書新版 1848 ページ・御書全集 1514 ページ)

◎巻頭言

この甚深の御書をいただいたのは、庶民の母である。度重なる大難に臆病な弟子らが退転しても、決して退かなかった健気な信心を、御本仏は「釈迦・多宝・十方分身の諸仏も御知見あるか」と讃えておられるのだ。

「あなたこそ、私と同じ不退の心の法華經の行者だよ、—それは、学会家族への御賞讃と拝されてならない。大聖人が開始なされた、人類の宿命を転換しゆく壮大なる平和と幸福の師弟共戦を、そのまま受け継いでいる地涌の陣列こそ、創価の父母たちであるからだ。

いかに障魔が競い起こり、いかに災難が打ち続こうとも、我らは「立正安国」の旗を断じて降ろさない。強敵が立ちはだかるほどに、誓願同心の民衆がいやまして団結し、底力を発揮して、一切を勝ち越えていくのだ。

(「大白蓮華 2019 年 4 月号)